

## 第2回奈良市の地域教育を考える委員会会議録

平成25年12月13日 会議

地域教育課

平成25年度 第2回 奈良市の地域教育を考える委員会 会議録

開催日時	平成25年12月13日(金) 15時00分～16時30分
開催場所	奈良市庁舎 北棟6階 第22会議室
内 容	<p>○ 開 会 教育長あいさつ</p> <p>○ 議事</p> <p>1 「奈良市地域教育推進事業へ発展的な取組に向けた提言」を受けての取組状況について</p> <p>2 奈良市地域教育推進事業に関するアンケートについて</p> <p>3 奈良市コーディネーター勉強会の報告について</p> <p>4 その他</p> <p>○ 閉会</p>
出席者(委員)	<p>岡田龍樹委員 佐野万里子委員 村内俊雄委員 新谷明美委員 竹村健委員 畑中康宣委員 瀬古口浩之委員 南出藤作委員 宮本克子委員 (欠席 若江真紀委員 魚谷和良委員)</p>
(担当部局)	<p>中室教育長 北学校教育部長 福岡教育総務部長 寺田子ども未来部長</p>
(事務局)	<p>松本教育支援課長 梅田学校教育課長 石原教育政策課長 岡崎こども園推進課長 松田地域教育課長(事務局長) 梅野地域教育課長補佐 地域教育課から6名</p>
開催形態	公開
担当課	地域教育課

## 議 事 お よ び 協 議 内 容

### ○ 開会（司会：北山）

教育長挨拶

本日は、年末の大変お忙しいところ、第2回奈良市の地域教育を考える委員会にご出席いただき、ありがとうございます。日頃より、奈良市の教育行政にご理解とご協力をいただいていることに対し、心から厚くお礼申し上げます。

地域教育に関しては、今年度12月の定例議会の中で「奈良市教育ビジョン」5年経過の進捗状況として問われました。私はその成果を、地域と学校との連携が強化されたこと。地域教育協議会を中心とした取組や放課後子ども教室の活動により、子どもたちの規範意識や社会性、コミュニケーション能力が向上したと答えています。このことは、奈良市の地域連携が進んできた表れだと思います。今後もこの事業を奈良市の強みとして進めていきたいと考えています。

本日の委員会では、今年度のこれまでの取組を踏まえ、委員のみなさまからきたんのないご意見をいただければと思っています。

今後とも本市の事業に、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

### ○ 議事（議事進行：岡田会長）

岡田会長 本委員会は、運営要領により公開とさせていただきます。また、会議録を作成するため、録音と写真撮影を行うことをご了承願う。本日の会議録の署名は、新谷委員と瀬古口委員に願います。本日の会議の傍聴希望はあったか。

事務局 傍聴希望はない。

#### 1 「奈良市地域教育推進事業への発展的な取組に向けた提言」を受けての取組状況について

岡田会長 では、議事に入らせていただく。はじめに「奈良市地域教育推進事業への発展的な取組に向けた提言」を受けての取組状況について、事務局より願います。

事務局 「地域教育を考える委員会」昨年の提言1から提言5に基づき「地域で決める学校予算事業」「放課後子ども教室推進事業」を進めている。また本年度10月から12月に実施した執行状況調査の聴き取りも参考に報告する。（資料1参照）

**提言1** 地域学校担当教員の配置状況

- ・中学校（主任5、教諭3）小学校（主任10、教諭7）幼稚園（主任14、教諭3）

**提言2** 各学校園への支援室の整備

- ・コミュニティルームの設置状況（中学校12、小学校12、幼稚園2）
- ・活用状況（例：都南中学校区「夢スクール」…学校を地域住民の生涯学習・学びの場とし、英会話・着付け・編み物・毛筆などの教室を開校している）

**提言3** PTAとの連携と協働を積極的に推進

**提言4** 地域への広報と公民館との連携（学校園だより・HP・チラシパンフレット・地域掲示板などいろいろな形で広報が広がっている）

**提言5** 地域教育協議会の定着と地域資源の積極的活用

放課後子ども教室（全市で実施）の広がり。H24年とH25年を比較すると登録児童・コーディネーター・安全管理員・学習アドバイザー数が増加している。

（取組例：大宮放課後子ども教室「特別企画」水ロケットづくり・振替休日に実施）

岡田会長 ただ今報告いただいた提言を受けての取組状況について、意見を伺いたいと思う。まず提言1「学校園担当教員」について

瀬古口委員 地域担当教員は、在籍年数を鑑みても管理職より地域の人に長く接する一般教員が望ましい。

本校は主幹教諭が担うが、それが難しい中学校もある。ただ PTA や地域連携の経験が初任者教員や主任教員の経験や理解に結びつく。

また、コミュニティルームは絶対必要で、全中学校にあると認識していたが、設置されていない理由はなぜか。行政は、設置されていない学校に理由を聞いているのか。

岡田会長 学校側が必要と思っけていても地域が積極的でない場合もあるかもしれない。

事務局 行政からは、各校園にお願いしている。ただ、少人数指導で教室を使用し、空き教室のない学校もある。今後の設置を進めたい。

岡田会長 物理的な問題もある。学校や協議会に働きかけてほしい。地域連携担当教員に主任が多いのならば、各校園の主任に理解を深めてもらいたい。小学校ではどうか。

南出委員 本校登美ヶ丘小学校でも、今年度 PTA に働きかけ、多目的室をコミュニティルームに転用している。登美ヶ丘北中学校を中心に東登美ヶ丘小学校、中学校区少年指導協議会、生徒指導教員、教務主任とも連携していきたい。本校は連合自治会組織がないので、小学校や地縁団体の力を借りて本事業を実施していきたい。

岡田会長 御苦勞もあると思うが、地域人材のマンパワーで運営してほしい。成功事例を本会議でも紹介するので、参考にしてほしい。幼稚園は小中と事情が違うが、どうか。

宮本委員 大規模小規模により、主任設置の有無や教員数の差がある。担当教員は、どうしても主任若しくは園長になる。コミュニティルームに関しては空き教室があっても、教員数も少なく管理が難しい。

岡田会長 PTA との連携の様子はどうか。

畑中委員 様々な小中学校の様子を聞いているが、協議会やコーディネーター、地域と連携しているところとそうでないところがある。特に土日の地域連携事業の取組となると PTA 保護者の事情を周知しているだけに、連携や参加を依頼しにくいようだ。PTA と協働している事例を教えてほしい。

岡田会長 奈良市 PTA 連合会の会議で地域との連携は話題になるか。

畑中委員 連携をどうしていくかの実質の話合いはない。

岡田会長 提言の趣旨は「地域が PTA を助ける。」という意味であって「PTA に地域学校連携事業を手伝え。」という意味ではない。地域はどうか。

竹村委員 都南中学校区では自治会が一斉に動く。広報では協力できている。

岡田会長 協議会の広報は地域へも届いている。公民館はどうか。

佐野委員 例を挙げると、都南と都跡中学校区では協議会との共催を実施した。都南の場合、公民館が出前講座で学校を開催場所にし、「夢スクール」という形で共催した。その逆もある。共催でなくとも、伏見公民館では地域教育協議会の人材を対象に、講座を実施した。このように様々な形で地域連携が進んできている。

岡田会長 公民館でも地域と学校の連携が進んでいる。地域教育協議会、地域の立場ではどうか。

村内委員 地域担当教員、PTA、公民館との連携は本事業を推進していけば、当然あるべきものだ。学校教員や管理職は公務なので当然担うべきだ。登美ヶ丘北中学校にはコミュニティルームが無い。しかし活動が活発になれば、当然コミュニティルームは必要だ。地域教育協議会の活動が活発になればなるほど、PTA、公民館と重複する部分ができる。個々の組織活

動（単独）は活発だが、それらが共催すれば更なる良いものが生まれる。登美ヶ丘北中学校区地域教育協議会と公民館をはじめPTAとも連携しようとしたが、PTAからすれば自身の仕事が増えると危惧している。

このように、活動を推進すれば提言1から4は地域教育協議会の定着や連携を進める上で必要だと思う。

岡田会長 今まで個々に取り組んできたものを共同すると、実は仕事が減る。

村内委員 もうひとつ、地域への広報は非常に難しい。私もチラシやビラを地域に配布したがそれだけでは集客できない。また人集めのために祭りやイベントをすれば良いというものでもない。

新谷委員 PTAとの連携で富雄中学校の例を述べる。以前はPTAと地域教育協議会の関係が悪くならないよう気遣っていた。毎年、中学校区の小学校PTA役員とコーディネーターの意見交換会を地域教育協議会主催で継続してきた結果、今年度中学校に入学し、PTA役員になった保護者は全て、意見交換会に出席したり、中学校でボランティアをしていた人材だった。コーディネーターが、保護者をPTA役員にとつないだ成功例だ。

岡田会長 地道な活動が成果となって現れている。成功例が広がり、全体で共有できると良い。

## 2 奈良市地域教育推進事業に関するアンケートについて

岡田会長 では次に「地域教育推進事業アンケート調査について」事務局に説明をお願いしたい。

事務局 これまでの成果と課題を把握し、次年度の事業に生かす目的で各地域教育協議会、各学校園に対してアンケートを実施する。昨年度のアンケートを踏まえながら、「今年度アンケート調査（素案）」の昨年との変更点を説明する。（資料2参照）

- ・調査対象者に代表コーディネーターを追加
- ・調査時期：2月中旬から3月
- ・内 容：昨年の質問内容を踏襲し、新たな項目を追加（下記）
  - 事業における活動内容について（コーディネーター及び学校園の立場両方から）
  - 事業における経費について（事業予算のうち必要と思われる経費の把握）

岡田会長 今年度より、委員のみなさんにアンケート項目を提示し、審議してもらうことにした。回答対象者に代表コーディネーターも加えたこと。活動内容は項目選択制にしたこと。事業費運営についての不満は具体的に何かを質問したこと（これについては評価会議でも声上がり、3項目選択制にした。）などが主な変更点だ。おおむねは昨年度を踏襲されている。この調査についてのご意見は。

村内委員 事業効果の中で、「子どもたちの学習意欲が向上した」の項目は総合コーディネーターや協議会会長にはわかりにくい。「学校が活性化した」も学校の何が活性化したのか、わかりにくい。

「経費について」は地域の立場では単年度予算、限定された執行しかできないなど。しかし、本予算は公費であり、頻繁に変えるものでもないのは当然だ。行政はこのことを協議会に理解を求めると良い。

岡田会長 「事業の効果」については、確かに学校園用と地域用で分けるという案もだが、学校園から見た子どもへの効果、地域から見た子どもへの効果という観点で設定した。「どのように感じたか」という設問なので、回答は主観でよい。このアンケートは経年の変化を見ながら回答者も増やし、今後に生かしたい。

### 3 奈良市コーディネーター勉強会の報告について

岡田会長 続きまして、奈良市コーディネーター勉強会について、新谷委員より報告していただく。これは前回、コーディネーターのスキルアップを図り、その力を自主的に生かしてはどうかという新谷コーディネーターの提案で始まった。

新谷委員 「第1回地域教育を考える委員会」で承認いただき、9月から開始。第1回は10人参加した。それぞれの地域で長年活躍するコーディネーターであったので、経験を聞くだけでも勉強になった。しかし以前より、このような成功事例を紹介しても、「地域差があり、課題や様子が違う」との理由をよく耳にする。個々に持つ経験談だけではなく、理論的に地域連携事業を分析・説明し、奈良市全体を考えるコーディネーターを目指す勉強会にしたいと参加コーディネーターも感じている。新人コーディネーターの育成も必要だ。

それを受けて第2回は（株）キャリアリンク代表取締役若江眞紀氏に「学校支援地域本部事業（地域連携推進事業）」の取組を明確にいただいた。

また第3回はモデル小学校の検証分析を岡田教授（アドバイザー）とともにいった。

全3回を通し、コーディネーター10名全員が、いつも参加している訳ではないが、奈良市で活躍する300名のコーディネーターに、この勉強会の存在を公開したい。年度末には、全コーディネーター対象に勉強会のアンケート調査も実施したいと考えている。

岡田会長 新谷委員からの報告では、以下のことが述べられた。

- ・H25年9月から開始した会であること。
- ・中学校区を越えて奈良市全体のことを考えよう。
- ・先輩コーディネーターが新人コーディネーターを育成しよう。

今後はコーディネーター研修を担当することや、交流の集いで勉強会の公表を視野に入りたい。

私もアドバイザーとして参画している。自校区の取組を他校区に当てはめて話せるコーディネーター。多忙な中、自主的に勉強しようとするコーディネーター。ここに奈良市コーディネーターの力を実感している。

### 4 その他

岡田会長 それでは、その他を事務局より報告を。

事務局 2点ある。

一つ目は「文部科学大臣表彰の報告」

二つ目は「第3回交流の集いのご案内」

① 平成25年度優れた「地域による学校支援活動」推進に係る文部大臣表彰を、二名中学校区地域教育協議会が受賞した。出席者は二名中学校校長・協議会会長、コーディネーター2名。受賞理由と表彰式の日時を報告。（資料1参照）

平成23年度は富雄中学校区地域教育協議会、平成24年度は三笠中学校区地域教育協議会が表彰された。

② 「第3回交流の集い」について（資料1、資料5参照）

奈良市の地域連携推進事業（放課後子ども教室推進事業・地域で決める学校予算事業の総括として、地域全体で子どもを守り育てる体制を作るため、家庭・学校・地域の連携による教育支援活動の取組を発表・交流する集いである。今年度は総合コーディネーターを中心に実行委員と行政が協働して行い、既に6回の実行委員会を実施した。

日時、場所、テーマ、サブテーマ、主たる内容（能楽ホール・レセプションホール）を報告。

岡田会長 今の説明について、ご意見を伺いたいと思う。

平成20年から3年は「成果発表会」として行政主体で実施し、平成23年からは「交流の集い」として、コーディネーター主体で実施するようになった。奈良市の地域人材の自主的な動きや力を拝見し、奈良市の地域教育の力を実感している。関わり続け、その成長を拝見できてうれしい。これで議事は全て終了した。質問がないようなので、議事は終了する。

司会 次回の委員会については、来年3月第1週目で開催を予定している。3月3日（月）から3月7日（金）までで会長と各委員が都合の良い日を選びたいと思う。

閉会

- ※ 資料
- ① 平成25年度 奈良市の地域教育を考える委員会（スライド資料）
  - ② 平成25年度 奈良市地域教育推進事業に関するアンケート調査（素案）
  - ③ 平成24年度 奈良市地域教育推進事業に関するアンケート
  - ④ 奈良市コーディネーター勉強会について
  - ⑤ 奈良市地域教育推進事業 第3回「交流の集い」チラシ

平成 年 月 日

署名委員

---

署名委員

---